

読者のお便りから

○私は、『時報』の、特に谷川修三先生の表紙絵を楽しみに拝見しています。出来れば、原画の展示会をしていただきたい。その内の7、8枚を（谷川先生の自選で）是非、絵葉書にして発売していただければとてもうれしく思います。

（向日市 石田 章）

○私は同志社大学の卒業生ではありませんが、「同志社時報」を愛読しております。131号の同志社創立135周年記念として開催された諸先生方の函館新島講座、大変感銘深く読ませていただきました。このところの日本人の有様をみるにつけ、新島先生の良心、自責の杖、国際友好、知徳併行：等の言葉、日本人ひとり一人が自覚して、大事にしていかなければならぬキーワードと実感しております。

（東京都 熊谷勝昌）

○昨年、ヒマラヤ山脈未登峰チャンラ峰登頂に成功していますが、一般に報道さ

れなかったのが残念でした。今後、貴広報課でも積極的にマスコミに連絡を執って頂きたいとお願ひ申し上げます。

同志社時報に参加者の手記掲載を希望しています。それと共に同志社時報、One Purposeの刊行を新聞などで全国の校友たちに広報されては、全く知らない者も多いようです。

（大阪市 花園堅三二）

○西村ゆりさんの「与えることでもうう人生」は興味深く拝読いたしました。西村さんは和製・マザーテレサと呼ぶにふさわしい人だと思えます。西村さんは、ノーベル平和賞候補にノミネートされる日が遠からず訪れるような予感がいたします。また、「私はいつも出会いや縁には何か意味があるのだと思つて、導かれるままに行動してきました」というこの言葉に感銘を受けました。一般の人はなかなかこのような心境にはなれません。卓越した精神の持ち主だと思います。

次に、八田英二学長の「同志社大学の改革」も読みこたえがありました。八田学長は「有言実行」の人だと思います。

数年前から同志社の将来像を提示し、そ

れを着実に実行できる手腕には非凡なものを感じます。

（京都市 川向幹男）

訂正

131号に誤りがありました。左記のとおり訂正し、お詫びします。

〔特集・講演〕

37頁中段 最後から5行目

× ご静聴
○ ご清聴